

# こども教育会議 会議録

<p>日時 平成27年7月23日(木) 13:30~14:40</p>	<p>場所 武雄市役所(4階) 全員協議会室</p>	<p>出席 小松市長 浦郷教育長、 教育委員(諸石、古場、河内、森、犬走、奥川、貝原) ※前田委員、岡本委員欠席 中野つながる部長、溝上教育部長、諸岡こども部長 教育総務課(樋渡係長)、学校教育課(徳永課長)、 未来課(牟田課長) 企画課(山田課長、富永、岡本)</p>
<p>1. 協議件名</p>		<p>第4回こども教育会議 (幼保小連携について)</p>

## 議事録

内容

### 1 開会(進行:中野つながる部長)

### 2 議事(議事進行:小松市長)

#### (1) 意見交換 テーマ「幼保小連携について」

⇒冒頭に、学校教育課から、幼保小連携について、武雄市の現状、課題等について説明した後、出席者で意見交換を行った。

<出席者からの主な意見>

- ・幼保小連携とは、小学校入学に際し不適應をおこさず、学習や生活を円滑にできるよう、就学前教育と小学校教育のなめらかで確実な接続を行い、幼保小間の段差の解消を図ることにある。教員同士の教育内容や指導法の違いを超えて互いの教育の理解を図り、幼保小の一環した教育を目指すことである。
- ・幼稚園・保育園の個別性、保育の仕方もそれぞれあるが、接続期においては小学校入学の準備として、足並みを少し揃えることがあっていいのではないかと。接続期における保育園の中の指導を共有するには、子育て支援センターの活用があるのではないかと。
- ・地元(小学校区内)の幼稚園・保育園とは連携がとれているようであるが、校区外の幼稚園・保育園と連携がとれていないとの声がある。
- ・幼稚園・保育園が伝えたいこと、小学校が知りたいことの情報に食い違いが生じていることがある。
- ・コーディネーター、つなぐ役割の人材がいた方がスムーズにいくのではないかと。
- ・現在、教育委員会の担当指導主事が幼保をつなぐ役割を担って、幼稚園・保育園に出向いている。特に配慮が必要な児童については、より緻密に連携し、情報共有を行い、対応していくというのが、ここ1、2年充実してきた。
- ・特に、こどもたちの情報や資料は幼稚園・保育園と小学校がお互いに神経を使っている部分である。文章でのやりとりでの誤解や、感情的すれちがいが現実的にある。電話一本、文章一枚ではなく、どういう形でお互い忙しい中で、情報共有の機会をもてるか、工夫していかないといけない。
- ・小中連携では、小学校と中学校の間の人事異動をするなどの実績があり、成果がある。幼保小での人事交流は難しいが、その可能性は探る必要がある。
- ・幼保小連携に「家庭」が加わる必要があるのではないかと。「幼稚園・保育園」と「学校」、そして「家庭」の連携を密にすることが必要である。結局、親力や地域の教育力に帰結する。家庭教育のサポートとして、親が学ぶ機会、「武雄親塾(仮称)」を開催したらどうか。
- ・保護者世代が非常にきつい時代であることは間違いない。そういう中で、どういうかたちで、家庭の役割と大事さを一緒に考える機会をもち、こどものためにやっていくのかというのは非常に大事なポイントである。

<市長の発言>

- ・幼保小連携は重要なテーマである。支援が必要な子どもが存在しており、幼稚園・保育園から小学校にどのようにスムーズに接続していくかが課題である。
- ・幼保小連携の情報共有は現在も行ってもらっているが、さらに深めてもらいたい。人数としては少ないが、幼稚園・保育園に通っていない子どもについては、保健師がその情報を把握している部分もあり、連携を深める必要がある。個人情報保護の観点を踏まえながら、教育委員会と情報共有していく必要がある。
- ・8月1日付組織改編で「こども教育部」が設置される。縦割りを解消して環境を整えていきたい。
- ・小学校教諭の保育体験、保育士・幼稚園教諭が小学校で教えるなどの相互乗り入れがあってもいいのではないか。
- ・武雄市ではどういった子どもを育てたいのかという視点を教育大綱に盛り込みたい。0歳から、義務教育であれば15歳、高校であれば18歳、それぞれの段階で連続的に育っていくかという視点が大事である。

(2) 次回開催について (予定)

- ・開催日 : 8月19日 (水) 13:30~14:30
- ・討議内容 : 「官民一体型学校 武雄花まる学園について」

3 その他

- ・なし

4 閉会 (進行: 中野つながる部長)